

# 鉄鋼・非鉄関連業界

## 着手経営者の未来展望

4

「非鉄原料分野で日本国内だけでなく、海外も含めた国際物流に関わっていきたい。そして日本のリサイクル業界で貢献していく。コロナ禍で発生は減少し、同業者間の競合も激化している。銅およびアルミ原料が中心になるものの、それ以外の非鉄金属の集荷につ

いても力を入れていく。よりきめ細やかに課題の『集荷力』を強化していく」と、橋本健一郎取締役(51)は自社の青写真を描く。扱い商品の拡大のためには、専門性にこだわらない買方が大事だと強調する。

橋本アルミは1984年設立の銅・アルミがメインの非鉄原料問屋。従業員が8人。銅・アルミ原料などの月間扱い数量は300tで、これは関

・亜鉛・砲金・真中・鉛・亜鉛・ピカ線・雑線などの非鉄金属スクラップ。扱い比率は銅系

・中国向けの品質は、日本向けの品質は、日本で、これは関係が35%。大阪市内を橋本アルミのホームページ内では「ほぼタ

ムーズ処理できる。刊、メタルなレポート」

## 橋本 健一郎・橋本アルミ取締役



# 機械化・自動化を徹底

最高値を更新する可能性が高い」という。

「当業界は一時期、

中国ブームが起ころつて

ベンチャー企業が随分

と出てきた。それも15

年ほど前にはいくらか

淘汰され、今残つてや

っているところは中国

といふ。コロナ禍の中、

べきは機械化・自動化

を徹底していること

役」。

だ。作業員2人で月間

800tまでの原料を

月に開催予定。これら

を皮切りに今年は何と

技術や商圏があり従業員

がある。そこでは金属

が活動していきたい」

がいても、会社を売る

スクランプの相場動向

昨年12月初旬、21年

の3月1日付で本社を

は、業界における先駆

などを橋本取締役が独

の視点で分析し発信

している。

楽観的だが、とんでも

ない好景気がやってく

けどなった。中国では

大阪市内の桜川から現

在地に移し、拠点を一

20年11月から各再生原

料の輸入基準を高品位

化した。

主要設備はペーラー

なものに限り「工業製

品原料」に変更、数量

SE製各1基)、三方式

国向け非鉄原料は銅系

クル協同組合理事長も

いたことながら、21

年はバブル相場が続く

とみた。LME銅・ア

ルミ相場はともに過去

記事は1月上旬に当紙

に掲載された。「昨年

12月初旬時点でNYダ

ウが最高値を更新して

いたことながら、21

年はバブル相場が続く

とみた。LME銅・ア

ルミ相場はともに過去

記事は1月上旬に当紙